

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立姿川第二小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問紙)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	108人	算数	108人	理科	108人
------	----	------	----	------	----	------

第5学年	国語	128人	算数	128人	理科	128人
------	----	------	----	------	----	------

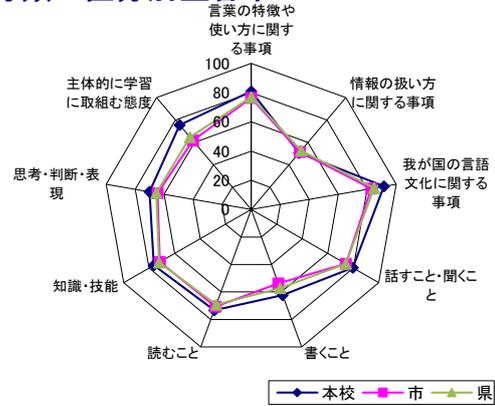
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立姿川第二小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	80.9	76.4	77.0
	情報の扱いに関する事項	50.6	51.5	52.7
	我が国の言語文化に関する事項	91.5	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	79.6	74.1	74.2
	書くこと	62.3	53.7	57.2
観点	読むこと	73.3	70.7	69.2
	知識・技能	76.3	71.6	72.3
	思考・判断・表現	70.1	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	75.5	61.6	64.7



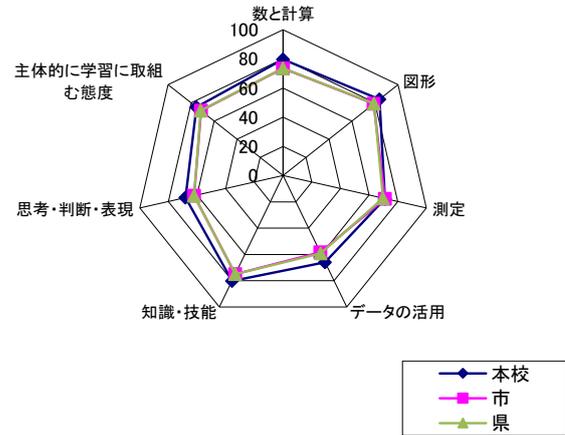
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は、県や市の平均より高い。</p> <p>○漢字の書き取りについては、県や市の平均より高く、特に、読みに関しては全ての設問において、正答率90%を上回った。文の構成(主語・述語)や様子を表す語句の理解についても、県や市の平均を上回っている。</p> <p>●ローマ字で表記されたものを正しく読む設問では、正答率が45.3%であり、県や市の平均より低かった。bとdなど似ている形の小文字を混同してしまう誤答も見られた。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・漢字の学習については、今後も新出漢字の学習時に様々な熟語を取り上げたり漢字の意味を調べたりする活動を継続して行っていく。また、国語の時間を中心に、文の構成を確認したり語句の意味を調べたりする学習の機会を設け、さらに定着を図る。</p> <p>・ローマ字については、タブレットPCの学習でも使用するため、今後さらに重要性は高まると思われる。単元の学習時だけでなく、計画的に繰り返し練習を行い、知識・技能が定着するよう指導していきたい。</p>
情報の扱いに関する事項	<p>平均正答率は50.6%で、市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○「情報と情報との関係について理解し、考えとそれを支える理由との関係を明確にして書く」設問の正答率は、県の平均を6ポイント上回っている。</p> <p>●情報を扱う問題の正答率自体が低い。特に記述式の問題の正答率は50%前後になっている。読み取った内容を設問に合った形で記述する力には課題が見られる。</p>	<p>・国語の授業だけでなく、総合的な学習の時間を始め様々な学習活動で調べ学習を取り入れる。分からないことを、自分の目的に応じた調べ方で行うことが出来るように指導していく。タブレットPCも活用し、今分かっていること、これから知りたいと思っていることをプリントなどに整理し、多くの情報の中から必要なものを選んで取り出す活動を取り入れていく。また、それを相手に伝える形で記述するなど、自分で整理した情報を分かりやすく表現する場を設定する。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は県や市の平均を5ポイント以上上回った。</p> <p>○漢字のへんやつくりについて、91.5%の児童が理解できている。</p>	<p>・日頃から新出漢字の学習の際に部首についても確認していることが理解に繋がっていると考えられる。今後もさらに定着を図っていきたい。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均より上回っている。</p> <p>○「相手に伝えるように、自分の考えを理由を挙げながら話す」設問の正答率は、県の平均を大きく上回っている。無回答の児童の割合も1.9%と少ない。</p> <p>●選択で回答する「話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉える」設問の正答率は、県の平均とほぼ同じである。話の内容を理解する力はあるが、話の構成を理解する力に関しては、課題が見られた。</p>	<p>・教科や特別活動の指導において、ペアやグループなどの少人数で話し合う活動を効果的に取り入れる。さらに、児童の日常生活でも自分の意見を発言できるように、多くの場を設定していく。また、どのように話をしたら自分の考えがより相手に伝わるのかを意識しながら、積極的に話し合いに参加し、自分の意見を述べる事ができるよう指導していく。友達の見聞を聞く際にも、話し手のスピーチの工夫に着目させるような機会を設ける。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、県や市の平均を5ポイント以上上回った。</p> <p>○出題のねらい別にみて、「指定された長さで文章を書く」「2段落構成で文章を書く」「自分の考えを明確にして書く」「自分の考えと理由を明確にして文章を書く」の設問の正答率が、県の平均を上回っている。</p> <p>●「書くこと」の全ての設問で、無回答率が他の分類・区分の設問に比べて高く、今後の課題と考えられる。</p>	<p>・敬体や段落の書き方の誤りが見られた。文章を書く基本的な事項についても、繰り返し指導していく。</p> <p>・国語の授業だけでなく、他の教科等でも、調べたことや経験したことを文章にまとめるなどの学習を積極的に取り入れていく。</p> <p>・無回答率の高さは、解答に十分な時間をかけられなかったことも理由の一つと考えられる。普段のテスト等でも時間配分や解答の順序などに気を付けさせていく。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、県や市の平均よりも高い。</p> <p>○特に物語文の文章を読んで感じたことを共有する問題では、県の平均を7ポイント以上上回っている。説明文では段落の内容に関する問題や中心となる語や文を見付けて要約する問題は県の正答率より約3ポイント以上上回っている。</p> <p>●説明文の読み取りは、県や市の平均より下回っている。段落の内容を捉える問題の正答率が49.1%、中心となる語や文を見付け要約する問題が54.7%と低いことから、段落や要約を意識した読み取りが課題である。</p>	<p>・物語文では、叙述をもとに人物の気持ちの変化を捉えられるように、気持ちを表す言葉や文について考えさせ、どのように変化していくのか板書やワークシートを活用して指導する。また物語の中の時と場所について考えさせて場面をイメージする機会を増やし、その様子を思い浮かべることができるように指導する。説明文では、段落を意識させ、問いと答えを表す語句にも着目させ、段落の意味を意識させる。大事な部分に傍線を引きながら、各段落同士の結びつきを考えさせ、文章のまとまりに着目しながら読み取らせる指導を進めていく。</p>

宇都宮市立姿川第二小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	79.7	73.5	73.6
	図形	84.0	79.0	79.1
	測定	71.1	71.1	69.8
	データの活用	66.0	58.4	59.2
観点	知識・技能	80.2	75.0	75.0
	思考・判断・表現	68.1	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	75.3	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

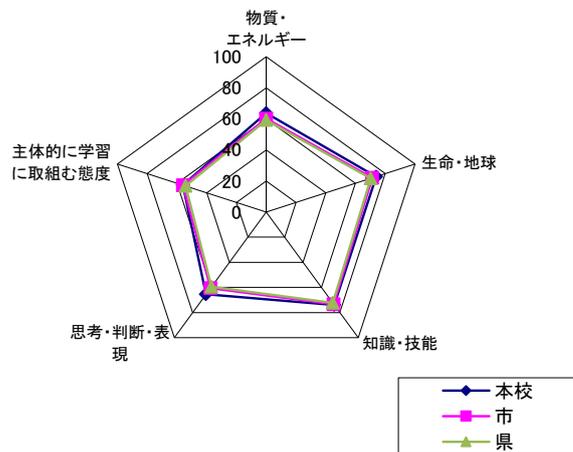
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、県や市の平均を6ポイント上回っている。</p> <p>○計算問題の正答率は高く、計算の手順をよく理解している。</p> <p>○小数のしくみについての設問の正答率は高く、よく理解している。</p> <p>●かけ算の筆算に出てくる数の意味の理解について正答率が低く、課題が見られる。</p>	<p>・今後も問題に多く取り組み、基礎基本の徹底を図るとともに、日常生活と密接に関係する課題を設定する。</p> <p>・日頃から、計算の意味を考えて計算方法を説明したり、類似問題に取り組みせたりすることで、知識を活用する機会を多く取り入れていく。</p>
図形	<p>平均正答率は、県や市の平均を5ポイント上回っている。</p> <p>○円の半径についての理解、与えられた1辺の続きをかくて正三角形を完成させる問題では、県平均を上回っている。</p> <p>●球の半径から直径を考えるなど、立体的なものを捉えることに課題が見られ、平均正答率は、県平均をやや下回った。</p>	<p>・実物や模型等を用いることで、半径、直径などの図形を構成する要素を捉えられるようにする。</p> <p>・円や球の性質、直径と半径の関係を用いて考えるような学習プリントや応用問題の活用や児童が自分で考え方を説明する活動を多く取り入れることで、理解を図れるようにする。</p>
測定	<p>平均正答率は、市の平均と同じである。</p> <p>○「時刻と時間」、「長さ・重さ」の知識・理解に関しては、ほぼ理解できている。はかりの目盛りを読み、そのものだけの重さを求める問題は県の平均を9.2ポイント上回った。</p> <p>●長さや重さの単位のしくみの理解が不十分である。</p>	<p>・実物や写真、表などでものの単位と比べながら単位の関係をとらえる活動を充実させたり、日常生活と結び付けて考えさせる問題に取り組みせたりする。</p> <p>・いろいろな形式の問題に取り組みせ、文章で表された単位の関係の理解を深める。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、県や市の平均より高い。</p> <p>○棒グラフを読み取る設問では、県の平均を6.3ポイント上回っている。</p> <p>○棒グラフの1目盛りの大きさに着目して、間違いを説明する設問では、県の平均を6.8ポイント上回っている。</p> <p>○複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み取る設問では、県の平均を7.7ポイント上回っている。</p>	<p>・棒グラフの表題の付け方や目盛りの付け方、読み方、複数の棒グラフの読み取りを繰り返し練習することで、さらに定着を図る。</p> <p>・身の回りの事象について、データを整理して表やグラフに表すだけでなく、表やグラフを読み取り、分かったことを伝えたりする活動を、積極的に行っていく。</p>

宇都宮市立姿川第二小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	63.7	60.2	59.2
	生命・地球	73.9	71.3	70.3
観点	知識・技能	74.0	73.4	72.3
	思考・判断・表現	65.4	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	56.0	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は県や市の平均を3ポイント以上上回っている。</p> <p>○「光の性質」や、「物の重さ」についての理解が十分できており、どの問題でも、県の平均を5%以上上回る正答率となっている。</p> <p>●豆電球の明かりのつき方を問う設問では、正答の人数と誤答の人数がほぼ同じ割合となっている。</p> <p>●磁石につく物とつかない物を問う設問では、県の平均を下回っていて、誤答の人数が正答の人数を上回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の結果について、客観的な見方で自分なりの考えがもてるようにする。 ・観察や実験において、予想や仮説などの見通しをもたせた上で、問題解決のプロセスを大切に授業設計をする。 ・観察や実験を通して、自然の事物・現象の性質や働きについて気付いたり確かめたりするなど、実感を伴った理解ができるように指導していく。 ・一問一答の問いだけでなく、自分の予想や考えを文章に書く活動など、様々な課題の形式に慣れさせる。 ・磁石の性質の実験においては、実験の目的を明確にするとともに、問題意識をもって取り組めるように十分な時間を確保して実施する。 ・回路をつくる際の導線の安全なつなぎ方については、指導する際に児童に身に付けさせたい学習内容や実験の安全性を明確にした上で授業を実施する。
生命・地球	<p>平均正答率は県や市の平均を上回っている。</p> <p>○植物の育ち方については十分理解していて、80%以上の正答率となっている。</p> <p>●野外の観察で近づいてはいけないとげや毒のある生物の理解について課題が見られる。</p> <p>●昆虫の成虫がたまごを産む場所の理由を推測し、説明することについて課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を活用する問題に多く触れさせる。 ・一問一答の問いだけでなく、自分の予想や考えを文章に書く活動など、様々な課題の形式に慣れさせる。 ・自然の事物・現象の理解を図るとともに、図やグラフなどの資料を正しく読み取ることができるように指導していく。 ・実験や観察の結果について、客観的な見方で自分なりの考えがもてるようにする。また、そのことについて理由付けをして説明する場面を設定する。

宇都宮市立姿川第二小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」について肯定的回答をしている割合が高い。今後も「問題解決型の課題」を多く取り入れることにより、児童の探究心をより高めていけるように努めていく。また、課題を解決するための手立て・方法についても十分指導していく。

○「授業を集中して受けている」について肯定的回答をしている割合は、県平均より高い。今後も、児童が集中して学べる学習環境づくりに努めていく。

○「友達の前で自分の意見や考えを発表することは得意である」について肯定的な回答をした割合は5割ほどだが、「クラスは発言しやすい雰囲気である」について肯定的回答をしている割合は、県平均よりも高い。自分の意見や考えの発表を苦手と感じる児童が多いが、発表しやすいクラスの雰囲気づくりを今後も継続していき、発表に対しての苦手意識の軽減を図るとともに、個人の自信をのばすような声掛けを行い、授業内で活発な意見交流を図っていく。

○「先生は学習のことについてほめてくれる」について肯定的回答をしている割合は、県平均より高い。今後も「ほめて伸ばす」指導を継続し、児童の自己肯定感を高めていく。

●「家で学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」について肯定的回答をしている割合が県平均より低い。自主学習の奨励をしたり、「家庭学習強化週間」を設定したりするなど、自ら課題をもって学習を進めていくことができるようにさせたい。また、自主学習の手本やよい内容に取り組んできた児童のノートを紹介することでより良い自主学習に取り組むことができるよう促していく。

●「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」について肯定的回答の割合が県平均より低い。授業において、本や辞書・インターネットなどを活用した調べ学習の時間を確保するとともに、積極的に調べていこうとする意欲を高め、分かる喜びを実感できる場を設定していきたい。

●「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」について肯定的回答をしている割合が県平均より低い。各授業において、質問タイムを設けたり、教師側から個別指導の時間を設定したりするなど、支援の工夫をしていく。

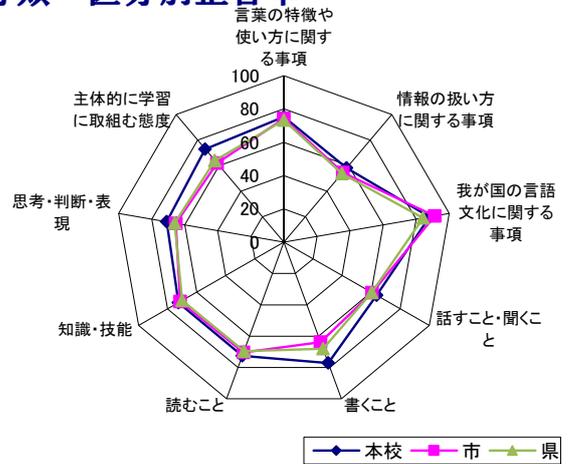
●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」について肯定的回答が多く、自分の意見や考えを表現することに苦手意識を感じている児童が多いことがわかる。日々の授業で振り返りを書いたり、自分の考えを短くまとめる活動の機会を設け、苦手意識の軽減とともに、自分の考えをまとめることに慣れていけるようにする。

●「普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか」について、2時間以上と回答した割合が県平均よりも低いものの、5割であった。家庭でのテレビゲームの使用時間や、年齢制限のあるゲームの利用などに関して、学校から児童、家庭に対して定期的に注意喚起を促し、適切にテレビゲーム等を利用できるような指導を推進していきたい。

宇都宮市立姿川第二小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	75.3	74.2	73.3
	情報の扱いに関する事項	58.2	54.7	53.8
	我が国の言語文化に関する事項	88.1	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	63.8	60.6	60.4
	書くこと	77.2	63.8	68.0
	読むこと	72.6	70.4	69.6
観点	知識・技能	72.6	71.3	69.9
	思考・判断・表現	70.9	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	73.0	61.9	64.0



★指導の工夫と改善

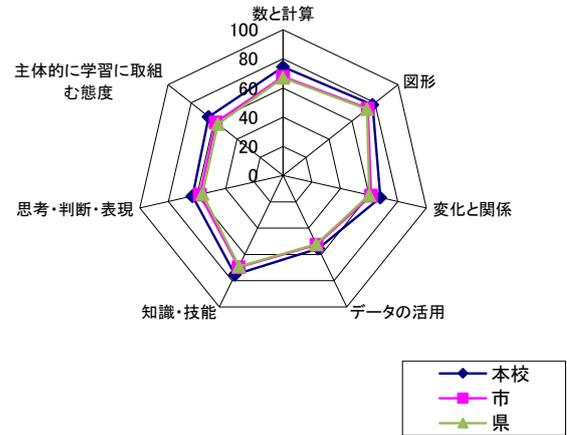
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、県や市の平均をやや上回っている。 ○漢字の読みや書きに関する設問では、正答率が高く、県平均を上回っているものが多い。 ●連体修飾語に関する設問では、正答率が県の平均を3ポイント下回り、連体・連用修飾語の正答率は50%と低く、今後の課題である。	・漢字練習については、今後も熟語練習を行ったり、意味調べをしたりしながら語彙を増やし、更なる定着を図る。 ・文法のプリント学習を行うことで、連体・連用修飾語などについては、理解が図れるようにする。
情報の扱いに関する事項	平均正答率は、市の平均を3.5ポイント上回っている。 ○話し合いの様子をよく読み取り、選択された案が良いと考える理由について、注意する点に気を付けながら、説明することがよくできており、県の平均を10ポイント上回っている。 ●内容を読み取り、段落相互の関係を捉える設問では、県の平均をわずかに上回っているが、正答率が50%前後なので、今後の課題といえる。	・説明文を読み解く際には、段落相互の関係を確認し、根拠を明確にしながらかけて相互の関係について理解を図れるように工夫していく。 ・問題文や設問について正しく理解し、正しく情報を読み取って活用することができるよう、日常生活から大切な部分に線を引く指導や、理由を問うような発問を取り入れながら指導を行うようにする。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、県平均を約4ポイント上回っている。 ○ことわざの意味を知り、正しく使っている児童が多い。	・今後も授業の中で出てきたことわざに興味をもたせ、意味調べをしたり、文章作りをしたりしながら語彙を増やしていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県や市の平均を3ポイント上回っている。 ○説明文の「情報と情報との関係について理解し、理由や事例などを挙げながら話す」設問の正答率は、県の正答率を10ポイント上回っていた。 ●「話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉える」設問では、県の平均を若干上回っているものの正答率が54%と低いいため、今後の課題とみられる。	・聞くことについて、授業以外の学校生活の中でも、話の目的や意図を考えながら聞いたり、自分の考えとの共通点や相違点を整理しながら聞いたり、話し手の工夫についても朝のスピーチや授業などで取り上げていく。 ・話すことについて、相手や目的、場に応じて、丁寧な言葉を用いるなど、適切に話すことができるように、朝のスピーチや国語以外の教科でも、場の設定を継続して行っていく。
書くこと	平均正答率は、県や市の平均を9ポイント上回っている。 ○「アンケート調査の結果をもとに、よりよいものにするための自分の考えを書く」設問では、県の平均を上回っている。特に、「指定された長さで書くこと」、「アンケート調査の結果を読み取ること」については、10ポイント以上上回っている。 ●「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く」設問では、県の平均をわずかに上回っているが、他の書くことの正答率と比べると10ポイント低く、課題が見られる。	・文章を書く際には、条件をよく把握して、必要な情報を落とさずに書けるよう、具体的な書き方を視覚化しながら提示して指導していく。 ・順序立てた構成により自分の考えをより明確にする文章の書き方や、その考えを具体的にするとはどういうことかなどの指導を重点的に行い、書く活動を他教科でも積極的に取り入れていく。
読むこと	平均正答率は、市の平均を1.8ポイント上回っている。 ○「物語文において登場人物の気持ちの変化や情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像する」設問については、県の平均正答率を5ポイント上回っていた。 ●説明文の「情報と情報の関係について理解し、段落相互の関係を捉える」設問では、県の平均を上回っているものの、42.9%と低い数値である。	・物語文では、全体の内容を考え、登場人物の気持ちの変化や情景について想像して読み取る活動において、少人数で意見交換をする場を設け、全体で共有するなど、丁寧に指導していく。 ・説明文では、全体の内容を的確に読み取ったり、段落相互の関係を考えたり、文章を要約したりする活動を繰り返し指導していく。 ・朝の読書の時間の確保、図書室の活用、読み聞かせなど、豊かな読書活動の一層の推進を図る。

宇都宮市立姿川第二小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	74.5	67.8	67.0
	図形	77.9	73.9	73.1
	変化と関係	67.9	61.4	60.2
	データの活用	55.4	52.7	52.1
観点	知識・技能	75.4	69.7	69.2
	思考・判断・表現	63.2	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	64.7	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

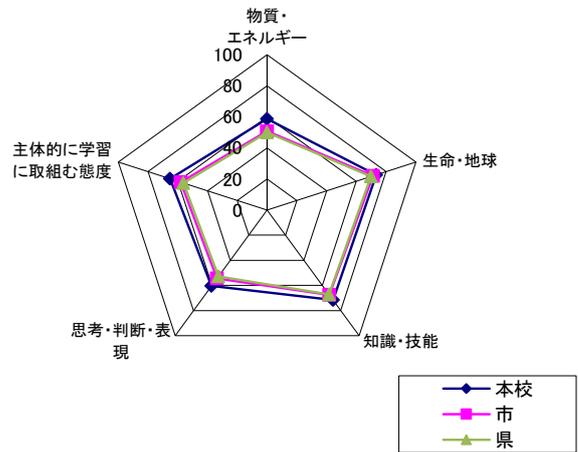
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は県や市の平均を7ポイント上回っている。</p> <p>○どの設問でも県や市の正答率を上回っている。</p> <p>○「除法の計算の仕方を工夫し、暗算する」設問では、県の正答率を10ポイント以上上回っている。説明する活動を充実させることで、理解を深めるような指導を推進してきた成果であると考えられる。</p> <p>●概数に対応する数の範囲の理解は、県の正答率より上回っているが、正答率が6割程度なので、底上げの必要がある。</p>	<p>・概数の範囲を理解するために、数直線上に概数の範囲や、「以下」「未満」をあらわすことで、視覚的に理解できるような学習活動を取り入れ、習熟を図るようにする。</p>
図形	<p>平均正答率は県や市の平均より高い。</p> <p>○「直方体のある辺に平行な辺を求める」設問では、県の正答率より10ポイント以上上回っている。日頃から実物に触れて、理解を深める活動を取り入れている成果が表れていると考えられる。</p> <p>●「180度より大きい角の大きさを求める」設問では、正答率が県より5ポイント以上上回っている。</p> <p>●「1000円札のおよその面積を選ぶ」設問で、県の正答率より上回っているが、正答率が5割程度なので、底上げの必要がある。</p>	<p>・分度器の使い方・読み方に関しては正しく理解されていると思う。しかし、問題をよく読まず、どこの部分を探めなければよいのかを正確に認識しないまま感覚的に解答していると思われる。180度より大きい角の大きさを求めるときには、補助線を引いて180度からどれくらい大きいか、または、360度よりどれくらい小さいのかをはっきりさせてから解答するように指導する。また、多くの類似問題に取り組ませることで、問題に慣れさせ習熟を図るようにする。</p> <p>・日常生活において、およその面積を求める機会を設けて、習熟を図る。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は県や市の平均を6ポイント上回っている。</p> <p>○「基準量と比較量から求めた割合を比較して、どちらの包帯がよくのびるのかを説明する」設問では、正答率は5割程度だが、県より10ポイント以上上回っている。多くの児童が記述の問題に苦手意識をもつ中で、本校では説明する活動を推進してきた。その成果であると考えられる。</p> <p>●「伴って変わる2つの数量の関係を式に表す」設問では、県の正答率を10ポイント以上上回っているが、本校の正答率は5割に満たない。問題場面の理解が不十分であることと、見つけた規則性を式に表すことに苦手意識をもつ児童がいることが考えられる。</p>	<p>・事象や問題場面を式に表したり、式を見て考えられる事象や問題場面を複数考えたりするような学習を取り入れ、式化することに慣れさせる。</p>
データの活用	<p>平均正答率は県や市の平均より高い。</p> <p>○「2つの折れ線グラフを読み取り、それを根拠に理由を説明する」設問では、正答率は低いながらも県よりも5ポイント以上上回っている。しかし無回答も3割程度いるので、無回答の児童を減らすような取り組みをしていきたい。</p> <p>●「折れ線グラフと棒グラフを読み取る」設問では、県の正答率を5ポイント程度下回っている。一つのグラフの中に二つの情報がある問題では、必要な情報を取り出すのに、どこを見ればよいのか理解が不十分であると考えられる。</p>	<p>・算数に限らず、社会や理科等でも折れ線グラフと棒グラフを読み取る活動を意識的に取り入れ、グラフを読み取る力の定着を図る。</p> <p>・表やグラフを読み取る際に視点をどこに置くかを考えたり、さまざまな表現方法を用いて記述したりするような学習活動を日頃から取り入れ、問題に慣れるようにする。</p>

宇都宮市立姿川第二小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	58.7	50.8	50.0
	生命・地球	73.3	71.1	69.8
観点	知識・技能	71.6	67.6	67.2
	思考・判断・表現	60.5	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	65.2	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、県や市の平均を8ポイント上回っている。</p> <p>○「物の体積と力」では、実験の結果から正しかった予想を選択することができたり、「物のあたまり方」においても予想から得られる結果を推察することができたりと、「予想→実験方法→結果→考察」という学習の流れがよく身に付いていると考えられる。</p> <p>○「水のすがた」や「物のあたまり方」などの実験方法や手順、理由を説明する設問において、ものの性質や特徴などと関連付けて解答することができている。</p> <p>●「水のすがた」では、固体・液体・気体という水の形態の名称を問われた問題において正答率63.5%と、県の平均を5ポイント下回った。</p> <p>●「乾電池の向きによって電流の向きが変わることを理解し、電流の向きは検流計の針の振れ方で分かることを指摘する」設問では、県の平均と同等ではあるが、正答率は15.9%でかなり低い。</p>	<p>・これまでの学習で、実験や観察で得られた結果をもとに考察をするという授業の流れが身に付いているため、今後も続けていく。さらに、問題の場面では、身近な事象からどうしてそのような現象が起こるのか疑問に持たせるように指導していく。</p> <p>・「水のすがた」の学習は4年生で扱っており、水を冷やし続けたときのグラフの変化については理解していることが伺えるため、実験の手順や実験で得られた結果について捉えることはできる。しかし、結果などから、物質には固体・液体・気体の状態があり、「温度によって状態が変化する」と、さらに「どの状態に変化するか」ということについて誤答・無解答率が高いことから、実験の結果を捉えるだけでなく、そこからわかる全体としての考察に目を向けられるよう指導していく。</p> <p>・「水の入ったペットボトルはなぜ凍らせてはいけないか」という設問で無解答の児童が多いことから、実験だけでなく、身近な現象にも目を向けて、考察したと結びつけて考えられるよう指導していきたい。</p> <p>・乾電池・モーター・検流計を導線でつなぎ、検流計の針の振れる向きとモーターのまわる向きを調べる実験を一人一人が意識して実験に取り組み、結果を自分の言葉でまとめさせてから、正しいまとめ方を指導をしていく。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、県や市の平均より高い。</p> <p>○「オオカマキリの季節ごとのようすについて理解する」設問では、県の正答率より、15ポイント高い。身近な動物をよく観察していることも正答率の高さに反映していると考えられる。</p> <p>○「水は高い場所から低い場所へと流れて集まることを理解する」設問では、県の正答率より12ポイント以上高い。実際に水の流れ方の実験をしたことが、高い場所から低い場所へと流れることの理解につながったと考えられる。</p> <p>●方位磁針の正しい使い方に関しては、県の正答率より19ポイント低く、正答率も19%とかなり低い。方位磁針を使って方位を正しく調べることに課題があるといえる。</p> <p>●「1日の気温の変化のグラフから晴れの日を判断し、その理由を説明する」設問では、県の平均と同等であるが、54%の正答率で、思考・表現する力に課題があるといえる。</p>	<p>・方位磁針の正しい使い方は、3年生の学習から扱っているが、5年生になっても、正しい使い方に課題があることが分かる。誤答から「北の方位が地図上では上」や「北の方位と針が重なること」という知識はあることは伺えるが、「北の方位とN極の針が重なる」という知識を結び付け、正しく回答することに課題があることが分かる。これから、社会科や理科の授業において、実際に方位磁針を使った活動を取り入れることで、方位を正しく調べる技能を身に付けさせていく。</p> <p>・晴れの日と雨の日の1日の気温の変化を比べる問題では、「気温の上昇がみられる場合が晴れ」である知識はあることは伺えるが、「著しい上昇」や「朝と昼の温度差がある」という知識を結び付け、正しい解答をすることに課題があることが分かる。また、考えた理由を簡単に書くことにも課題がある。これから、授業の終末に、短文で基礎的な用語を用いながらまとめていくことを重点的に行っていく。更に、生活場面と理科の授業で学んだ内容を想起させ、身近な場面と理科的な事象を結びつけていくことを意識していく。</p>

宇都宮市立姿川第二小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭学習に関する項目については、すべての設問に対して肯定的な回答をした児童が、市、県の平均を上回っていた。中でも「家で、学校の復習をしている」と答えた児童が77%と市の平均を11.7ポイント、県の平均を8.8ポイント上回っており、学習に学んだことをきちんと身に付けようとする姿勢がうかがえる。

○学習に関する項目については、「勉強していて、不思議だな・なぜだろうと感じることもある」の設問に対して、肯定的な回答92.8%と高い割合を示しており、市の平均を7.9ポイント、県の平均を10.9ポイント上回り、学びに対して前向きに取り組んでいることがうかがえる。

○生活に関する項目において、「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」の設問に対して肯定的な回答をした児童は98.4%で市、県の平均を上回っており、普段から委員会の当番活動や学級での係活動を、自主的に行っている姿が多く見られる。

○自身に関する項目において「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」「自分には、よいところがある」「だれに対しても、思いやりの心をもって接している」の設問では市、県の平均を上回っており、生活の中で達成感を感じ、友達との関係も良好に築こうとする姿勢が見られた。

○社会的な実践力に関する項目において「自分の良さを人のために生かしたい」「自分がもっている能力を十分に発揮したい」「将来の夢や希望をもっている」の設問に対しても市、県の平均をどちらも上回っており、将来を見据え、夢と希望をもって生活している児童が多いことが分かる。

○家族に関する項目において、「家の人と学校の出来事について話をしている」が93.7%、「家の人と将来の夢について話すことがある」が94.6%と高く、市や県の平均を大きく上回った。

○「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」が86.5%、「地域や社会に怒っている問題や出来事に関心がある」が80.1%と市や県の平均を上回り、世の中の出来事に関心をもっている児童が多い事がうかがえた。

●学習に関する項目の中で、「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」の設問では、市の平均を6.4ポイント、県の平均を3.6ポイント下回った。また、「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動を良く行っている」では、市を2.1ポイント、県を3.9ポイント下回った。コロナ禍で話し合いができない状況とはいえ、発言以外での表現方法について工夫しながらそれぞれの考えを述べる機会を増やしていきたい。また、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の設問では、肯定的割合が46.8%と、市の平均を3.4ポイント、県の平均を1.8ポイント下回った。授業展開の中で、話し合い活動の前には個別で思考する時間を必ず取り、ノートやワークシートに自分の考えをメモするを行い、自信をもって自分の考えを述べるようにしていきたい。

●生活に関する項目の中で、「毎日、朝食を食べている」の設問に対して肯定的割合が95.3%と高い数値ではあるが、毎日食べていないと答えた児童がみられた。児童全員が毎日朝食を食べて健康に留意した生活を送ることができるよう、さらに啓発を図りたい。

●自身に関する項目において「自分は勉強がよくできるほうだと思う」「自分の行動や発言に自信をもっている」の設問に対して肯定的に回答する児童が、わずかではあるものの市や県の平均を下回った。児童が自己有用感を高めることができるよう、一人一人の良さの見取りや声掛けを積極的に行い、自信につなげていきたい。

宇都宮市立姿川第二小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
言語活動を意識した学習展開の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 語彙力を増やすための国語・漢字辞典の積極的な活用 音読・短作文作り 語彙・文法の基礎定着を図ったプリント学習 読書の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 「言葉の特徴や使い方に関する事項」や「書くこと」では、4・5年生ともに県や市の平均より高い。 「我が国の言語文化に関する事項」で、4年生は県や市の平均より高い。5年生は市の平均より低いものの、県の平均よりは高い。
相手意識を大切にしたい主体的な「伝え合い」活動の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で、自分の考えを文章や図などで説明したり、友達同士伝え合ったりするなど、表現する場を意図的に位置付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語の「相手に伝わるように自分の考えを理由を挙げながら話している」「話し手が伝えたいことの中心を捉えている」「自分の考えとそれを支える理由を明確にして文章を書いている」などの設問で県の平均より高い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
調べたことを文章にまとめる問題は、正答率は県や市の平均と同等であるが、40%以下と、かなり低い。	比較したり分類したりする力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 国語や総合的な学習の時間などで、調べる目的を意識し、集めた材料を比較したり分類したりする活動を重視する。また、伝えたいことを明確にしてからまとめるように指導していく。 家庭学習で調べ学習を低学年から取り入れたり、良いものを掲示して、今後の参考にできるようにしたりする。
「説明文の段落相互の関係を捉える」や「話し手が伝えたいことの中心を捉え自分の考えをもったり、理由や事例などを挙げながら話したりする」問題が60%以下と低い。	自分の考えを根拠にもとづいて説明したり書いたりする表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で、自分の考えを文章や図などで説明したり、友達同士伝え合ったりするなど、表現する場を意図的に位置付ける。 話型文や思考スキル活用して、思考の過程を順序立てて説明するよう指導する。